

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	給排水設備の災害レジリエンス検討小委員会	主 査 名：西川 豊宏 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (水環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：西川 豊宏
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	給排水衛生設備分野において実用化された環境配慮(省エネ・省資源)技術の動向を考慮に入れ、災害に直面した際のこれら技術の有効性や課題点を精査し、建築物に求められる事業継続性(BCP)と居住継続性(LCP)について検討する。また、給排水設備原単位、有効な設備耐震対策等といった現行の基規準と相反する事項の有無についても調査し、給排水設備の災害レジリエンスの向上に資する情報を整理・提案する。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：西川豊宏(工学院大学)、 幹事：進藤宏行(日建設計総合研究所)、 委員：大塚雅之(関東学院大学)、中野民雄(静岡文化芸術大学)、 水谷国男(東京工芸大学)、渡辺荘児(森ビル)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2016 年度予算	25,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無し
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 構成委員より災害時の給排水衛生設備の被害に関し、横断的な情報収集、 課題整理が行われた。 2. 建築ハード面のみならず、緊急時の罹災者動向や被災者支援といったソフト 面からの課題整理が行われた。 上記活動から、建築にかかわる水のライフラインに関する災害レジリエンス向上 に向けた課題抽出とその対応策が整理され、当初の活動計画通りの成果を得た。
委員会活動の問題点 ・課題	新規テーマ立ち上げと位置付ける小委員会であることから、研究職を主とした委員 構成であったため、経済性や実務性についての議論の希薄さが問題点であっ た。これを課題点として新規設置する小委員会では、行政、民間企業からの委員 を拡充し、活動の活性化を図り、成果の外部発信を推進する予定である。

2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本年度は、当小委員会の2年間の活動計画の最終年度に当たり、各回の小委員会では、各委員より災害時の給排水衛生設備の被害の文献調査結果や常時・非常時に求められるライフライン設備に係る情報収集がなされ、小委員会での報告・議論を通じて、委員間での情報共有が図られた。</p> <p>また、構成委員のアクティビティとして、当小委員会での研究内容を中心とした活動は、2016年度の科学研究費補助金「給排水ライフラインの機能維持と災害レジリエンス向上に関する研究（研究代表者：西川豊宏）」の採択にも寄与しており、体系的かつ本格的な活動が着実に推進されている。</p> <p>さらに、平成28年度文部科学省の私立大学研究ブランディング事業採択プロジェクト「巨大都市・複合災害に対する建築・情報学融合によるエリア防災活動支援技術の開発と社会実装（工学院大学）」の活動に関連性が強く、より活発な委員会活動の展開が期待される。</p> <p>その一方で、当小委員会は、研究テーマとして新規立ち上げに位置づけという側面も併せ持っており、活動成果の外部発信、書籍等の刊行には至っておらず、来年度より発足する「給排水設備の災害レジリエンス調査小委員会」における活動課題の一つとして引き継ぐ予定である。</p> <p>以上より、本年度の活動計画・目標に対しては概ね計画通りであり、総合評価としては達成度70から80%のB評価とした。今後は、後継の小委員会において更なる活動の活性化を図り、有用な知見の蓄積と成果の外部発信を推進する予定である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。